

他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習

—学びを通して身に付けた言葉の力を日常生活で生かそうとする—

読むこと部 研究主題

自立した学習者を育てる読むことの指導

第6学年国語科学習指導案

単元名 伝え合おう、太一の生き方 私の生き方

～物語から見つけた生き方を自分の生き方とつなげて考えよう～

学習材名「海の命」（光村図書 6年）

第1会場 品川区立大井第一小学校 日時：令和8年2月20日(金)5校時 児童：品川区立大井第一小学校 第6学年梅組 32名 担任：品川区立大井第一小学校 教諭 齋藤 汐帆理 指導者：品川区立大井第一小学校 教諭 齋藤 汐帆理	第2会場 台東区立松葉小学校 日時：令和8年2月20日(金)5校時 児童：台東区立松葉小学校 第6学年1組 30名 担任：台東区立松葉小学校 主任教諭 辻川 和範 指導者：品川区立八潮学園 教諭 渡辺 優菊
--	---

1 単元の目標

- 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。 [知識及び技能] (1)ク
- 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1)エ
- 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1)カ
- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

2 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。((1)ク)	①「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) ②「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)	①進んで文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げ、学習の見通しをもって中心人物の生き方に対する考え方を話し合おうとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

・ 第1会場

本学級は読書が好きな児童が多いが選書の偏りがある。国語の学習では友達と問いについて話し合い、考えることに意欲的に取り組む一方で、個人でじっくりと物語に向き合い、感想をもったり、問いを見出したりすることを苦手とする児童が多い。

・ 第2会場

本学級は、国語の学習や読書活動に苦手意識をもつ児童も見られ、日常的に自らすすんで読書をする児童は少ない。文章を読んで自分の考えをもったり自分の言葉で表したりすることが苦手な児童が比較的多く見られるが、友達のを聞いて考えを深めたり、共感したりして考えを形

成している姿は多く見られる。

そこで本単元では、今までの学習を生かして読み、太一の生き方について友達と伝え合ったり、物語を読むことを通して自分の生き方を見つめたりして、物語について語り合う楽しさや、今まであまり読んだことのないジャンルの物語に触れるよさに気付けるようにする。そして、次の読書活動への意欲付けとなるようにしたい。

(2) 学習材について（学習材観）

「海の命」は、海という自然を舞台に、「太一」が、「父」、「与吉じいさ」、「母」、「クエ・瀬の主」など、様々な人物や出来事に影響を受け、成長する姿が描かれている。自らの生活経験や生き方・考え方と照らし合わせて読み、登場人物それぞれの生き方について考えられる本作品は、小学校卒業を控えた6年生の児童が学ぶのに相応しい学習材である。児童の生活経験や考え方、捉え方は異なるため、「太一」の成長に関わった人物たちの言動や、そこに表れる考え方に対しても、共感を覚えたり、自分とは違うと感じたり、それぞれの思いを抱くだろう。そのため、対話や話し合いを通して自分の読みを広げたり深めたりする学習に適している。物語全体を通して、登場人物の「生き方」について考えていくために、複数の叙述を結び付けながら、作品全体を俯瞰して読み進めていくことが大切である。

(3) 単元について（単元観）

本単元では、物語やそこから自分が考えたことについて友達と伝え合う楽しさを児童が実感するために、「物語から見付けた生き方について、自分の考えをまとめ、伝え合う」という言語活動を設定した。「海の命」や、単元の初めに紹介するブックリスト、今まで自分が読んできた本の中から見付けた登場人物の生き方について、「この考え方や生き方、憧れるな。」「自分もこんなことを大切にしたいな。」など、自分の生き方とつなげて考えたことを友達と伝え合う。異なる考えをもつ人同士で伝え合うことで、様々な生き方やそれぞれの思いがあることを知り、それらが物語を読むことによって引き出されることを感じられるようにする。

児童とともに学習計画を立てていく際には、「生き方」とは何なのかを既習の物語文を基に考え、それを軸に「海の命」を読み進めていけるようにする。太一の生き方を追っていく中で、登場人物それぞれの生き方や考え方に焦点を当てて読むことになる。毎時間グループでの交流をすることで、児童が自分の読みを深め、見方・考え方を広げられるようにしながら、友達と物語について伝え合うことを積み重ねる。精査解釈、考えの形成、共有を2次の中で往還的に行い、3次につなげていく。小学校最後の学年として、自分の未来を見据えて物語から生き方について考えるという視点で学習を進めていけるようにしたい。

本をじっくり読む時間が少なくなりがちな高学年であるからこそ、解釈の違いを楽しめる読み方や、協働して学ぶことで分かる奥深さなどを実感させ、「読書っていいものだな。」「物語について友達と話し合うことって楽しいな。」という思いを引き出し、読書の広がりにつなげたい。

4 研究主題に迫るために

(1) 「言葉による見方・考え方」を働かせる学びをつくる

目指す児童の姿：①「読み方」を意識して読む

○ 学習分析表の作成

本単元の学習材分析表において、初発の感想を交流して立てた大きな問いである「物語から見付けた生き方を自分の生き方とつなげて考えよう」に迫るために、小さな問い①「太一にとって海とはどのような場所になっていったのか。」②「太一は周りからどのような影響を受けたのか。」③「瀬の主をとらなかったとき、太一はどのような思いだったのだろうか。」④「太一はどのような生き方をしたのだろうか。」を位置付けている。

叙述をもとに、「会話」「様子」「心情描写」「情景描写」等が読みの観点となり、共通点や相違点を比較したり、関連付けたりしながら読み、「登場人物の人物像」「人物関係」「心情の変化」を追っていく。読み深めていく中で、それらが今度は読みの観点となり、人物像を比較したり、叙述を結び付けて予測したりすることで、「太一の成長・生き方」を考えていく、という読みの積み重ねりが分かるようにした。

※読むこと部全体の研究については、別紙（読「研究部」1-2）の資料を参照。

本単元で育てたい読むことと見方・考え方		
読むことと力	読みの観点	整理・分析等の方法
<ul style="list-style-type: none"> ・表現の工夫に気付く力。 ・人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の様子や会話、行動 ・心情描写・比喻表現・情景描写 ・登場人物の人物像、相互関係、心情の変化、考え方の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通点や相違点の比較 ・関連付け ・自分につなげる ・予測する ・類推する

(2) 児童が（本単元において）身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める。

目指す児童の姿：②自ら読み進める

○ 単元構成の工夫

本単元では、児童の興味関心を引き出し、自ら学びを進めるために「出合う→つかむ→問いをもつ→深める→まとめる」の流れを意図的に構成した。

「出合う」…本単元では「読書」と学習材「海の命」という2つの出合いを仕掛ける。まず単元前にアンケート実施し、これまでの読書活動について振り返る。アンケートの内容を基に、友達の読書量や読書傾向について知ったり、よく読む本の種類や登場人物、友達と本についてする話など話し合ったりすることで、「読んだことのないような物語を読んで読書の幅を広げたい」「読んだことを自分に生かしたい」という思いがもてるようにする。

そのような思いをもったところで学習材「海の命」に出合わせる。初読では、太一の成長や変化、山場についての感想が多いと考えられるが、その前に読書について前述のような考えをもった上で感想を交流することで、単元を通して考えたいテーマである大きな問いにつながる「登場人物の生き方」に目を向けやすくする。このとき「生き方」について考える視点が児童の中で共有されていることが、これから交流し、語り合っていく際の重要な柱になると考える。そこで、既習の物語文を想起し、中心人物の生き方を話し合う中で、「生き方とは何か」を児童の言葉から設定し、今後の読みの視点として共有していく。既習の物語を例に出して考えることで共感しやすくなり、「様々な物語の中に生き方がある」ことが分かる。

【生き方とは（例）】

- 何を大切・尊敬・尊重しているのか
- どんな行動をする・しない
- どんな信念や思いをもっているのか

「つかむ」…一次で物語の舞台背景や時系列、場面、展開を大まかに捉えたり、人物相関図を書きながら文章の大体や登場人物を整理したりして、太一の成長には登場人物の大きな影響があることや、山場での大きな変化を感じられるようにする。

「問いをもつ」…内容を大きくつかんだ上で、「生き方」という大きな問いにどのように迫ればよいか交流し、児童の疑問や話し合いたいと思うことを中心に小さな問いを整理していく。必要に応じて教師が単元で身に付けさせたい力も示しながら、全体で話し合っして学習計画を立て、主体的に読み進められるようにする。

「深める」…小さな問いについて読んでいくときには、大きな問いにある「生き方」とつなげて自分の考えをまとめていくことで、「太一の生き方」についての自分の考えも自ずと積み重なっていくようにする。

「まとめる」…読みを積み重ねていくことで、「生き方」そのものについて考えられるようになり、学習材はもちろん、自分が選んだ物語の登場人物の生き方と自分とを結び付けて考え、まとめられるようにする。

○ 「読みの足あと」の活用（「7 資料(2)」参照）

学習の振り返りでもある「読みの足あと」には、「問いに対する最終的な自分の考え」「どこに着目して、どう読んでいったのか」「読んできた物語から見付けた生き方」をまとめることとする。「問いに対する最終的な考え」は、グループ交流や全体での話し合いを経た後の深まった自分の考えを書く。「どこに着目して、どう読んでいったのか」には、どの観点や考え方をを使って読んだかを貯めていくことで、自分で「どのように読んだか」が意識できるようにする。この積み重ねが、「自分で読める」になり、読書を日常的に楽しむことにもつながる。

「読んできた物語から見付けた生き方」は、毎時間書かなくてもよい。今まで自分が読んだ本の中で思い出したものや、ブックリストの本を読んで思ったこと、それ以外に自分で読んだ本から見付けた生き方があれば書き、第7時につなげていく。

「読みの足あと」は、毎時間の冒頭で教師が意図的に紹介し、児童の読みを価値付けていくようにする。また、児童の多様な読みを紹介することにより、他者の読み方に着目させて振り返ることができ、自身の「読みの観点」や「整理・分析の方法」を増やし、中学校以降への学習につなげることができる。

(3) 学習活動（言語活動）において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ他者と関わり協働する中で、新たな考えをもつ。

目指す児童の姿：③協働的に読む

○ 交流の工夫

【拡大全文シート】

毎時間グループ交流の時間を設け、自分の考えたことについて話し合う経験を重ねていくことで、物語について友達と語り合うことの良さを感じ、言語活動につなげていけるようにする。グループ交流の際には、各グループで1枚ずつ、交流用の全文シートを使用し、特に詳しく話し合った叙述に線を引く。毎時間線の色を変えることによって、学習の積み上がりや何度も着目する叙述が視覚的に分かるようにする。また、机間指導中、全文シートの線が引いてある叙述を把握することができ、全体共有にも活用できる。

【交流から始める読みや考えの形成】

2次のまとめとなる第6時では、一人読みの時間をとらず、あえてグループ交流から始める。そうすることで、自分の考えを言い合うことで終わらず、活発に話し合うことにつながると考える。ここまでの毎時間積み上げてきた読みを生かすとともに、話し合いの中で考えを深めたり新たな読みにたどり着いたりすることもできるであろう。拡大全文シートに前時まで引いた線も生きてくる。その分、最後の自分の考えをまとめる時間を十分に取ることで、個の読みを深められるようになる。第7時では、物語から自分が見付けた生き方についてペアで交流することから始め、生き方について伝え合う楽しさや、様々な生き方、それぞれの考え方があることを感じられるようにする。それらにより深まった自分の考えをまとめることができる。

(4) 獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

目指す児童の姿：④言葉や文章を大切に使う

○ 読むことのよさや面白さに気付く工夫

【ブックリストの提示】（「7 資料(3)」参照）

登場人物の生き方について描かれた本の中で、伝記を読む児童は多い。しかし、「海の命」のように、生き方について書かれた「物語」に出合うことで、今まであまり読んでこなかった読み物や読み方を知り、読書の幅を広げ、読書を楽しむことにつなげたい。そのために、登場人物の生き方について考えられる本（以下「生き方が読める本」）のリストを作成して提示する。様々な実態の児童、特に読書を苦手とする児童でも興味をもち、自ら本を手にとることができるよう、内容はもちろん、長さや対象年齢などあえて多様な本をリストにした。教室にその本をそろえることで、いつでも手に取って読むことができる環境を整える。

また、第1時で「生き方とは何か」を考えたときに既習の物語文を用いることで、今まで読んできた物語の中にも「生き方」があり、違う価値や読み方ができることに気付くことができる。それも読むことの幅を広げることにつながると考える。

【見付けた生き方を伝え合う言語活動の設定】

本単元の終末の言語活動では、物語から見付けた生き方について自分が感じ、自分と結び付けて考えたことを友達と伝え合う。みんなで読んできた「海の命」だけでなく、第1時で取り

上げた既習の物語やブックリストから読んだ本、それ以外に自分で読んだことのある本など、自分で選べるようにした。そうすることで、読書をすることや、本について友達と伝え合うことに意欲的になり、「本について友達と話すって楽しい」と感じられるようにする。

国語の授業で獲得した言葉の力を日常生活に活用する			
読み方(見方・考え方)が分かる	読むよさや面白さを感じる	進んで、幅広く読書に親しむ	読書につながる工夫
物語の全体像や登場人物同士の関係、情景描写等に関連付けて読むことで、登場人物の生き方について考えることができた。	・物語をめぐって、自分が考えたことを友達と伝え合うのは楽しい。 ・物語を読むと、自分の生き方の参考になる。	これまでに読んだ本の違う価値や読み方に気付いて読み返したり、今後の読書につなげたりする。	・ブックリストの提示(生き方が読める本) ・見付けた生き方を記録できる読みの足あと ・本について伝え合う言語活動の設定

5 単元計画 (全7時間)

過程(次)	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
第一次 構造と内容の把握	1	1 これまでの読書活動を振り返る。 ・事前に行ったアンケート結果を見ながら、本のジャンルや登場人物等について話し合う。 2 今日のめあてを確認する。 「海の命」を読んだ感想を交流しよう。 3 「海の命」の範読を聞く。 4 初発の感想をまとめ、交流し、大きな問いを立てる。 C 太一はすごいな。 C なぜ大魚を殺さなかったのかな C でも最後は幸せになっている。	○これまでの読書体験を振り返り、物語を読むことへの意欲をもたせる。 ○分からない言葉や馴染みのない言葉の意味を理解し、共通理解できるようにする。 ○単元の学習内容につながるよう、初発の感想の項目をあらかじめ提示する。	
		物語から見付けた生き方を自分の生き方とつなげて考えよう。		
	2	1 既習の物語文に登場した生き方について確認し、生き方とは何かを共有し、単元の見通しをもつ。 C 大造じいさんは、正々堂々と戦うことを大事にしていた。狩人としてカッコいい人だった。 C ブックウーマンは、命をかけて本を運んでいた。本の面白さを子どもたちに伝えたいという強い思いをもっていた。 C どんなことに着目して読めば太一の生き方が分かるだろう。	○〈生き方とは〉は常時教室に掲示しておき、児童が考えるヒントになるようにする。	〈生き方とは〉 ・何を大切、尊敬、尊重しているのか ・どんな行動をする、しない ・どんな信念や思いをもっているのか

	<p>○ 今読んでいる本の登場人物の生き方も紹介したいな。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <p>大体の内容を捉え、学習計画を立てよう。</p> <p>3 登場人物の整理をし、文章全体の構造を把握する。 ・ 太一の生き方を捉える上で重要だと考える叙述にサイドラインを引く。 ・ 時間や場所、場面や物語の展開を全体で確認する。 * 太一の職業 * 太一と父、与吉じいさ、母との関係性 * 太一と瀬の主の関係</p> <p>4 初発の感想を基に、みんなで読み深めたい問いを話し合い、学習計画を立てる。</p> <p>5 「生き方が読める本」を紹介する。</p> <p>6 次時の学習内容を確認する。</p>	<p>○ 瀬の主は登場人物ではないが、物語の中で大きな役割なので取り扱う。</p> <p>○ 全文シートに線を引きながら一人読みができるようにする。</p> <p>○ 簡単な人物相関図を書き登場人物について整理する。</p> <p>○ 問いを整理しながら、太一の生き方について考えられるように学習計画を立てる。</p> <p>○ ブックリストを掲示し、本を教室に置く。いつでも本を手にとれる環境を作る。</p>	<p>〔主体的に学習に取り組む態度①〕 <u>読みの足あと・観察</u> ・ 進んで物語を読み、瀬の主をとらずに、村一番の漁師であり続けた太一の思いと生き方を考え、話し合おうとしているかの確認。</p>
<p>第二次 精査・解釈／考えの形成</p>	<p>3</p> <p>1 課題を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>太一にとって海とはどのような場所になっていったのか。</p> <p>2 全文シートの根拠となる叙述に線を引く。</p> <p>3 課題に対する自分の考えをノートに書く。</p> <p>4 グループで考えを交流する。</p> <p>○ 最初、太一にとってあこがれの場所だった。</p> <p>○ 与吉じいさに弟子入りしてから、つり糸を握らせてもらえなくて、ある意味不自由な場所だったと思う。</p> <p>○ 与吉じいさの弟子に入ってから一本釣り漁師として成長して、自由な海になっていった。</p> <p>○ 最初はおとうと漁に出たいと思っていて、太一にとって海は夢だったけれど、おとうが海で死んで、夢を見る場所ではなくて、いつかクエを倒してやるという気持ちで目指す海になったのだと思う。</p>	<p>○ 自分の考えを叙述を基に示すことができるように確認する。</p> <p>○ 考えを整理するために、図や箇条書きなど自分に合った方法で書くことを伝える。</p> <p>○ 太一の海への思いの変化が捉えられるように、初めの場面では海がどんな場所だったのかを全体で確認してから話し合いをスタートさせる。</p> <p>○ 話題に取り上げた叙述について、交流用全文シートに線を引いたり、指し示したりしながら</p>	<p>〔知識・技能①〕 <u>全文シート・ノート</u> ・ 比喩や色彩表現、情景描写などの表現の工夫に気付いているかの確認。</p> <p>〔思考・判断・表現①〕 <u>ノート・読みの足あと</u> ・ 太一、父、与吉じいさ、母の人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりできているかの確認。</p>

	<p>5 学級全体で共有する。</p> <p>C 与吉じいさは海に帰っていったのだから、漁師にとって海は生きる場所であり、死ぬ場所だと理解できたのだと思う。父が死んだときは、理解ができなかったけれど、自分も漁師として成長し、分かったのだと思う。</p> <p>C 最後まで「海の命は変わらない」とあるから、海そのものを大切に守り、ずっと受け継ぐものだと考えている。</p> <p>6 読みの足あとを記入する。</p>	<p>ら話し合わせる。</p> <p>○おとうと与吉じいさの死が太一にどのような変化を与えたのか考えられるように、意図的に発言を取り上げる。</p> <p>○太一の変化が分かるように、物語の流れに沿って板書にまとめる。</p> <p>○終わったら他児の足あとを見てもよいことを伝える。</p>
4	<p>1 前時の学習を振り返り、課題を確認して学習の見通しをもつ。</p> <div data-bbox="316 898 1080 958" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>太一は周りの人たちからどのような影響を受けたのか。</p> </div> <p>2 本文を読み、根拠となる叙述に線を引き、課題に対する自分の考えを書く。</p> <p>C 太一が与吉じいさに弟子入りをしたのは、父の瀬で漁をしたかったからだと思う。</p> <p>C 与吉じいさの「千びきに一びき」に大きな影響を受けて、太一は最後までそれを守って、漁をしたから村一番の漁師であり続けたのだと思う。</p> <p>3 グループで交流する。</p> <p>C 母を悲しませると分かっているも潜り続けていた太一だけれど、母を大切に思っていたことは間違いない。太一は絶対に海で死なないようにしようと思っていたと思う。</p> <p>C もりをおろすまでは、「死んでもとりたい」と思っていたのではないかな。「泣きそうになりながら」など、かなり強い思いだったはず。</p> <p>4 学級全体で交流する。</p> <p>C 太一が与吉じいさに弟子入りをしたのは、父の瀬で漁をしたかっただけではなくて、なんとしても瀬の主を倒すために、海で生きる方</p>	<p>○自分の考えを叙述を基に示すことができるように確認する。</p> <p>○話題に取り上げた叙述について、交流用全文シートに線を引ながら話し合う。</p> <p>○母から受けた影響についても考えられるように、机間指導をして声を掛ける。</p> <p>○太一はもぐり漁師ではないこと確認し、太一が仕事のためではなく、海にもぐっていたことを確かめる。</p> <p>○太一が様々な人物から影響を受け</p>

第3時

◆読みの観点

- ・会話・様子
- ・出来事・情景描写
- ・心情描写

◇整理分析の方法

- ・太一にとって海がどのような場所に変わっていくか、出来事や心情と結びつける。

第4時

◆読みの観点

- ・会話・様子
- ・出来事・人物関係

◇整理分析の方法

- ・おとうと与吉じいさの共通点や違いを整理したり、三人の太一への影響や関係を図にまとめたりする。

	<p>法を学んでいたのではないか。</p> <p>C 与吉じいさの「千びきに一びき」に大きな影響を受けて、太一は最後までそれを守って漁をしたから村一番の漁師であり続けたし、最後に母も美しいおばあさんになれたのだと思う。</p>	<p>て、生きていることが分かるように、人物関係を図にまとめる。</p>	
5	<p>5 読みの足あとを記入する。</p> <p>1 前時の学習を振り返り、課題を確認して学習の見通しをもつ。</p>	<p>○太一が一本釣り漁師であることや、瀬の主を見付けるためにもぐっていることを確かめる。</p>	
	<div data-bbox="325 696 975 801" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>瀬の主をとらなかったとき、太一はどのような思いだったのだろうか。</p> </div> <p>2 本文を読み、根拠となる叙述に線を引き、課題に対する自分の考えを書く。</p> <p>C 何度も浮上し戻るところから殺すか殺さないかすごく迷っていることが分かる。</p> <p>C おとうがとれなかった大魚をとって、おとうを超えて、本当の一人前の漁師になりたいと思っているけれど、大魚をおとうだと思うことでやめた。</p> <p>C 大魚は海の命だから殺さなかった。</p> <p>3 グループで考えを共有する。</p> <p>C 海の命って何だろう。</p> <p>C 与吉じいさのおかげで「海に生きられる」ようになった太一にとって、海の命はずっと共に生きていくもの。</p> <p>C 本当に主はおとうなのかな。「こう思うことによって殺さずにすんだ」という表現が気になる。</p> <p>C 大魚は敵ではなく、海の命の一部だと気付いたのだと思う。</p> <p>4 学級全体で交流する。</p> <p>C 自分のうらみや名誉のために魚を殺すのはいけないと思ったから。</p> <p>C 「千びきに一びきでいい」だから。大魚も他の魚と同じように、海の命で、守ろうと思えたのではないか。</p> <p>5 読みの足あとを記入する。</p>	<p>○太一が瀬の主を取らなかった場面とその前後の場面を音読し、山場を確認する。</p> <p>○「海の命」について触れて考えている児童には、海の命とはどういうことなのか尋ね、考えが深まるようにする。</p> <p>○話題に取り上げた叙述について、交流用全文シートに線を引きながら話し合う。</p> <p>○次時で考える、太一の生き方につながるようなく生き方とはの内容を中心に板書する。</p>	<div data-bbox="1117 801 1430 1451" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>第5時</p> <p>◆読みの観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太一の行動や様子 ・瀬の主の様子や描写 ・父やじいさから受けた影響 ・母の言葉 <p>◇整理分析の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太一の行動や様子、影響を与えた人物、情景描写などを結びつけて読んだり、友達と話し合ったりして太一の心情について考えを深める。 </div>

<p>6 本 時</p>	<p>1 前時の学習を振り返り、課題を確認して学習の見通しをもつ。</p> <p>太一はどのような生き方をしたのだろうか。</p> <p>2 グループで交流する。</p> <p>C 瀬の主をとらなかった太一は、「本当の一人前の漁師」にはなれなかったのかな。</p> <p>C 村一番の漁師として幸せ暮らしているから、家族の幸せを大切にしたいのだと思う。</p> <p>C 大魚をとらなかったからこそ、「一人前の漁師」だと思う。自分の感情をおさえて、海と共に生きていくことを選んだから。</p> <p>C 千びきに一びきという与吉じいさの教えを大切にしたら村一番の漁師であり続けたのではないか。</p> <p>3 学級全体で交流する。</p> <p>C 瀬の主を生かし、海の命を大切にしながら海で生きようとする太一こそ本当の一人前の漁師だと思う。</p> <p>C 父や与吉じいさと同じように、海のめぐみを大事にして、生涯まんせず、漁師として海を大切に、海と共に生きることを選んだのだと思う。</p> <p>4 読みの足あとを記入する。</p>	<p>○交流用全文シートの今まで話し合ってきた叙述を指し示したり、新しく印を付けたりしながら話し合うように伝え、児童が太一の生き方を考える根拠をもてるようにする。</p> <p>○「本当の一人前の漁師」と「村一番の漁師」という表現の違いから、太一の生き方を考えられるように意図的に指名する。</p> <p>○生涯誰にも話さなかった太一の思いから生き方を考えられるように、意図的に指名をする。</p>	<p>第6時</p> <p>◆読みの観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの人物との関係や影響 ・山場の行動や心情 <p>◇整理分析の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語全体から太一の成長や山場での選択などを、最後の場面と結びつけて読む。
<p>第 三 次</p> <p>考 え の 形 成 ／ 共 有</p>	<p>7</p> <p>1 今までの学習を振り返る。</p> <p>2 課題を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>物語から見付けた生き方を自分の生き方とつなげて考えよう。</p> <p>3 物語から見付けた生き方や考えたことについて交流する。</p> <p>C 『海の命』から「夢を捨てることも勇気」だと気付いた。</p> <p>C 私は太一を見て「あきらめずに努力を続けることのすばらしさ」を思ったから真逆に感じたけれど、そんなに努力して求めたものをあきらめることに価値がある、と考えることもできるのか。</p> <p>C 『成瀬は天下を取りに行く』の成瀬は、周りの目を気にせずに、自分の力を最大限に発揮して、本気で生きている。絶対に自分を曲げ</p>	<p>○「海の命」の太一でも、これまでに読んだ本の登場人物でもよい。「読みの足あと」を基にする。</p> <p>○見付けた生き方を短冊に短く示して交流に臨むことで、質問や議論がしやすいようにする。</p>	<p>〔思考・判断・表現②〕</p> <p>ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太一などの物語の登場人物の生き方から自分の生き方を考え、伝え合い、考えを広げることができているかの確認。

ないところがすてきで、自分とは違うと思った。

- 4 物語から見付けた生き方を自分の生き方とつなげて書く。
- C 太一と大造じいさんには「ずっと追い求めた獲物を殺さない」という共通点がある。理由はちがうけれど、違う選択をすることで2人とも人として成長した。時には「あきらめる勇気」をもとう。
- C 『成瀬は天下を取りに行く』の成瀬は、周りの目を気にせずに、自分の力を最大限に発揮して、本気で生きている。私はどこかずっと周りの目を気にしているところがある。成瀬みたいに本気で生きる生き方にあこがれる。少しずつ私も周りの目を気にせずに頑張れるようになっていきたい。
- 5 単元の振り返りをする。

- 複数の登場人物の共通点から考えることもできると気付かせる。
- 自分の生き方が考えにくい児童には、物語の登場人物の生き方と自分の共通点や相違点を考えるように伝える。
- 内容だけでなく読書についても触れられると良いことを声かけする。

〔主体的に学習に取り組む態度①〕

読みの足あと・観察

・物語から見付けた生き方から自分の生き方を考え、伝え合おうとしているかの確認。

6 本時の学習（6/7）

(1) 本時のねらい

クエをとらなかった太一の姿や漁師としての在り方から、太一の生き方を考えることができる。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 評 価 方 法
<p>1 前時の学習を振り返り、課題を確認して学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最後の場面を読み、クエを取らなかった太一のその後を確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 掲示物を基に、クエを取らなかった太一の思いについて振り返る。 ○ 読みの足あとを紹介し、これまでの学習を振り返りながら考えるよう促す。 	
<p>太一はどのような生き方をしたのだろうか。</p>		
<p>〈生き方とは〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 何を大切、尊敬、尊重しているのか ・ どんな行動をする、しない ・ どんな信念や思いをもっているのか 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの学習と、家族のおだやかな様子や太一の漁師としての姿を結び付けて「太一の生き方」を考えられるよう、最後の場面を整理する。 ○ 〈生き方とは〉の掲示物は常に黒板に貼っておき、生き方への考えをまとめるヒントになるようにする。 	
<p>2 グループで交流する。</p> <p>(1) 交流用全文シートを見ながら、根拠となる叙述に印を付ける。</p> <p>(2) 叙述から考えた太一の生き方について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交流用全文シートには、特に詳しく話し合ったところに絞って印を付けるよう伝える。 	
<p>◆ 読みの観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 周りの人物との関係や影響 ・ 山場の行動や心情 <p>◇ 整理分析の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 物語全体から太一の成長や山場での選択などを、最後の場面と結びつけ、推察して読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループ用の全文シートは、毎時間線の色を変えさせることによって、学習の積み上がりや何度も着目する叙述が視覚的に分かるようにする。 	<p>〔言葉による見方・考え方を働かせている児童の姿〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人物の様子や関係性に着目しながら、場面を関連付けて考えている。
<p>C 「本当の一人前の漁師」ではなく、「村一番の漁師」でいることを選んだのだと思う。どんな魚でも取れる漁師ではなくて、海に生きる生物などを大切にして、漁師として生きていくことを望んだのだと思う。</p> <p>C 瀬の主を殺さなかった太一は、本当の一人前の漁師にはなれなかったけれど、村一番の漁師として幸せ暮らしているから、家族の幸せを大切にしたいのだと思う。</p> <p>C 太一は自分の勝手な思いよりも、与吉じいさの教えを守って生きることを選んだのだと思う。与吉じいさに弟子入りして、父を超えたいという思い以上に、海のめぐみを大事にし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 机間指導中、全文シートの線が引いてある叙述を把握し、全体共有で意図的な指名ができるようにする。 ○ 交流が止まっているグループには、物語の後半部分から「本当の一人前の漁師」や「もちろん太一は生涯だれにも話さなかった。」などの着目させたい視点を与える。 ○ 最後の場面の叙述から、前の場面に戻って考えられるように、板書に最後の場面 	<p>〔思考・判断・表現①〕 ノート・読みの足あと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 太一、父、与吉じいさ、母の人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりできているかの確認。

て、千匹に一匹以上取らない選択、クエを取らない選択をした。

3 学級全体で交流する。

C 瀬の主をとらなかつた太一は、一人前の漁師にはなれなかつたけれど、千びきに一びきの教えを大切にしてい、必要な量の魚だけ取って生きるような生き方をしている。

C 太一は、周りの人の考えに影響を受けながら成長し、村一番の漁師になることができた。瀬の主を生かし、海の命を大切にしてい海で生きようとする太一こそ、本当の一人前の漁師だと思ふ。

C 父や与吉じいさと同じように、海のめぐみを大事にして、生涯じまんせず、漁師として生きることを選んだのだと思ふ。

4 「読みの足あと」を記入する。

- ・問いに対する自分の考え
- ・どこに着目し、どう読んでいったのか
- ・これまでに読んできた物語から見付けた生き方

の叙述を残しておく。

○「本当の一人前の漁師」と「村一番の漁師」という表現の違いや重なりに着目させられるように、意図的に指名や声かけをする。

○これまでの読みと「生涯だれにも話さなかつた」ことを結び付けて太一の生き方について考えている児童を意図的に指名する。

○次時では物語から見付けた生き方から自分の生き方につなげていくことを確認する。

(3)板書計画

〈生き方とは〉

- ・何を大切、尊敬、尊重しているのか
- ・どんな行動をする、しない
- ・どんな信念や思いをもっているのか

- ・母や、家族を大切にしたい。
- ・瀬の主を打たず、海の命を大切にすることを選んだ。
- ・与吉じいさの「千びきに一びき」の教えを守った。
- ・おとうの、大物を獲っても自慢しない姿勢を見習った。

〈生き方〉

挿絵

村のおすめとけっこん、四人の元気でやさしい子どもたち母は、おだやかで満ち足りた、美しいおばあさんになった。太一は、生涯誰にも話さなかつた。

【これまでの読み】
・漁師としての成長
・父・じいさ・母の影響
・海で生きる→海と共に生きる、海の命を大切に

海の命
立松和平 文
問い 太一はどのような生き方をしたいのだろうか。

伝え合おう、太一の生き方 私の生き方
物語から見付けた生き方を自分の生き方につなげて考えよう

7 資料

(1) 読みの足あと

○ 第3時～第6時

	★ 読んできた物語から見つけた生き方			① 問いに対する最終的な考え	問い <div style="border: 1px solid #00a0e3; padding: 5px;">「海の命」を読んで 伝え合おう 太一の生き方、私の生き方 ↳物語から見つけた生き方を自分の生き方とつなげて考えよう</div>
				② ここに着目して、どう読んでいったのか。	

○ 第7時

生き方 ・何を大切にするか ・どんな信念、思いをもつか ・どんな行動をする、行動をしないか	〈自分の生き方につながりそうなこと〉	〈物語から見つけた生き方〉	物語の題名「 」 登場人物「 」	7 物語から見つけた生き方を自分の生き方とつなげて考えよう
--	--------------------	---------------	---------------------------	-------------------------------

(2) ブックリスト

「海の命」 ブックリスト

	題名	作者	出版社
1	サンドイッチクラブ	長江優子	岩波書店
2	モギ ちいさな焼き物師	リンダ・スー・パーク	あすなろ書房
3	ぼくとベルさん	フィリップ・ロイ	PHP出版
4	虹いろ図書館 へびおとこ	櫻井とりお	河出書房新社
5	みんなのためいき図鑑	村上しい子	童心社
6	西の魔女が死んだ	梨木香歩	新潮社
7	獣の奏者	上橋菜穂子	講談社
8	成瀬は天下を取りに行く	宮島未奈	新潮社
9	じぶんの木	最上一平	岩崎書店
10	ジャガーとのやくそく	アラン・ラビノヴィッツ	あかね書房
11	半日村	斎藤隆介	岩崎書店
12	グスコープドリの伝記	宮沢賢治	リトル・モア
13	モモ	ミヒヤエル・エンデ	岩波書店
14	スイミー	レオ・レオニ	好学社
15	大造じいさんとガン	椋鳩十	理論社
16	ぼくのブック・ウーマン	ヘザー・ヘンソン	さ・え・ら・書房